

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



町医者としての私の日常は、朝イチから在宅医療。午前のお外。午後から在宅そして夜診。そこから深夜まで往診。時々深夜や明け方のお看取り往診もあります。

夕方に在宅患者さんをまわると、場所中は、ほとんどのお宅のテレビが大相撲中継になっています。先日、独居のおばあちゃんのお宅に訪問診療したとき。

「潮丸が死んでもた」と泣きそうな顔をしていました。次のお宅に行くと、今度はおじいちゃんが悔しそうでした。「可愛い関取やったんや。これから、親方として活躍するぞだったのに若すぎる…」と。

相撲ファンに愛されていた、元幕内力士の潮丸関（東関親方）が、12月13日に帰らぬ人と

長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

なりました。享年41。死因は、

「血管肉腫」との発表です。報道によれば、昨年11月頃より体調を崩し、治療をしていたようです。皮膚や内臓ではなく、骨や筋肉や神経や脂肪組織にできるがんを、「肉腫」と呼びます。英語でサルコーマと呼ぶこともあります。

胃や肺や大腸など内臓のがん



に比べ、発生頻度はとても少なく、がん全体の1%というデータもありますが、どこにできてもおかしくないため、その症状は多種多様で発見しづらいのが特徴です。

血管肉腫は、血管の内側の皮細胞が異常増殖することによって起こりますが、原因はまだわかっていません。ある調査によれば、頭部に怪我をした人になりやすいという結果も出ており、物理的な刺激が要因になっている可能性も否めません。それにしても…この連載を続けていてスポーツ選手の中で一番多く取り上げている職業はお相撲さんのような気がします。

平均寿命は60代前半とも言われています。

怪我也厭（いと）わなない激しい稽古、そして食べに食べ続けられて大きくなるの

が仕事ですから、「体に悪いから、食べるのを控えて」とは言えません。日本の国技のため、命をかけて闘っている力士さんをただ見守るしかありません。死の5日後、夫人はブログ「東関部屋 おかみさん日記」にこんなふうに綴っていました。

「入院し、急激に体調が悪化する中、予定より早く帰る事ができ、意識も朦朧としていましたが、部屋に着き力士たちが迎えると目をぱっちり開きうなずきました。部屋に戻った翌日、力士たちが順番に親方の手を握り呼びかけ、全員が終わるのを待つように徐々に呼吸が弱くなり、最期は力士たちと私と娘に抱きしめられながらすーっと眠るように逝きました」

41歳にして親方としての責務を果たすため、病院から部屋に帰って若い力士と家族に自らの平穏死を見せて旅立たれた潮丸。相撲魂をここに見た気がしました。

137 潮丸関（東関親方）

弟子たちの目に焼き付けた相撲魂